



分科会名:スタートアップ分科会

- リーダー機関 株式会社三井住友銀行
- 代表者名 角元 敬治
- リーダー名 宮川 潤

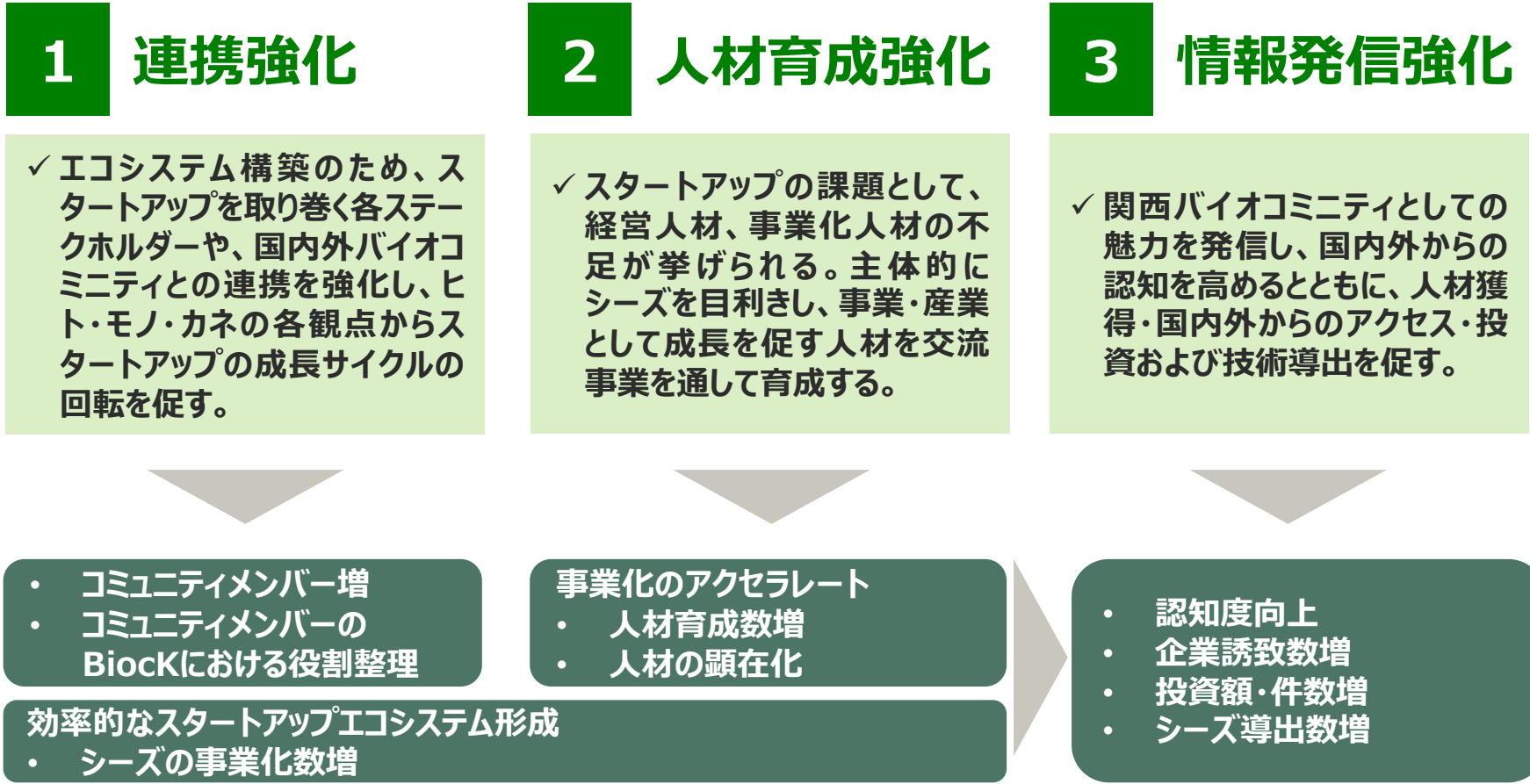
検討メンバー・コミュニティのメンバー

BiocKを取りまとめる近畿バイオインダストリー振興会議と密に連携しながら、スタートアップ分科会のリーダー機関として三井住友銀行が取りまとめ、メンバー機関のと共に推進する。2022年度は、新たに7社がメンバーに加入。メンバー間の連携して推進していく。

属性	団体名	役割
リーダー機関	三井住友銀行	分科会取りまとめ
メンバー機関	日本総研	分科会取りまとめサポート
メンバー機関	三菱UFJキャピタル	分科会運営サポート、意見発信等
メンバー機関	池田泉州銀行	同上
メンバー機関	大阪産業局	同上
メンバー機関	丸紅	同上
メンバー機関	三井住友信託銀行	同上
メンバー機関	三井住友海上火災保険	同上
メンバー機関	フォースタートアップス	同上
メンバー機関	西日本電信電話	同上
メンバー機関	住友生命保険	同上
メンバー機関 (新)	阪急阪神不動産	同上
メンバー機関 (新)	SUNDRED (MIRACLE代表法人)	同上
メンバー機関 (新)	キヤノン	同上
メンバー機関 (新)	日本ベーリンガーインゲルハイム	同上

スタートアップ分科会が目指す3つの機能強化

スタートアップにおいては、シーズ（モノ）を基にして、経営人材（ヒト）を獲得し、資金（カネ）を調達することによって、事業化人材（ヒト）を獲得して、さらに事業を拡大するという、成長サイクルが回っている。スタートアップ分科会ではスタートアップの成長をエコシステムとして支援するための、ソフト面の3つの施策に注力する。



1 連携強化

1 関西で活動するスタートアップ関連支援組織・機能との連携強化

- ✓ 既存で確立されている支援機能の相乗効果を図るとともに、現在リーチできていない課題・ギャップに対する手当てを検討する。
- ✓ 関西イノベーションイニシアティブ（KSII）、京阪神スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）、関西広域連合、各クラスターやアカデミアが有するスタートアップ支援機能との連携を図る。

具体案 支援機能との連携を通じた課題・取組みの具体化、コミュニティメンバーの拡充

2 関西における研究機関、投資・金融、大手・中小企業とスタートアップの連携強化

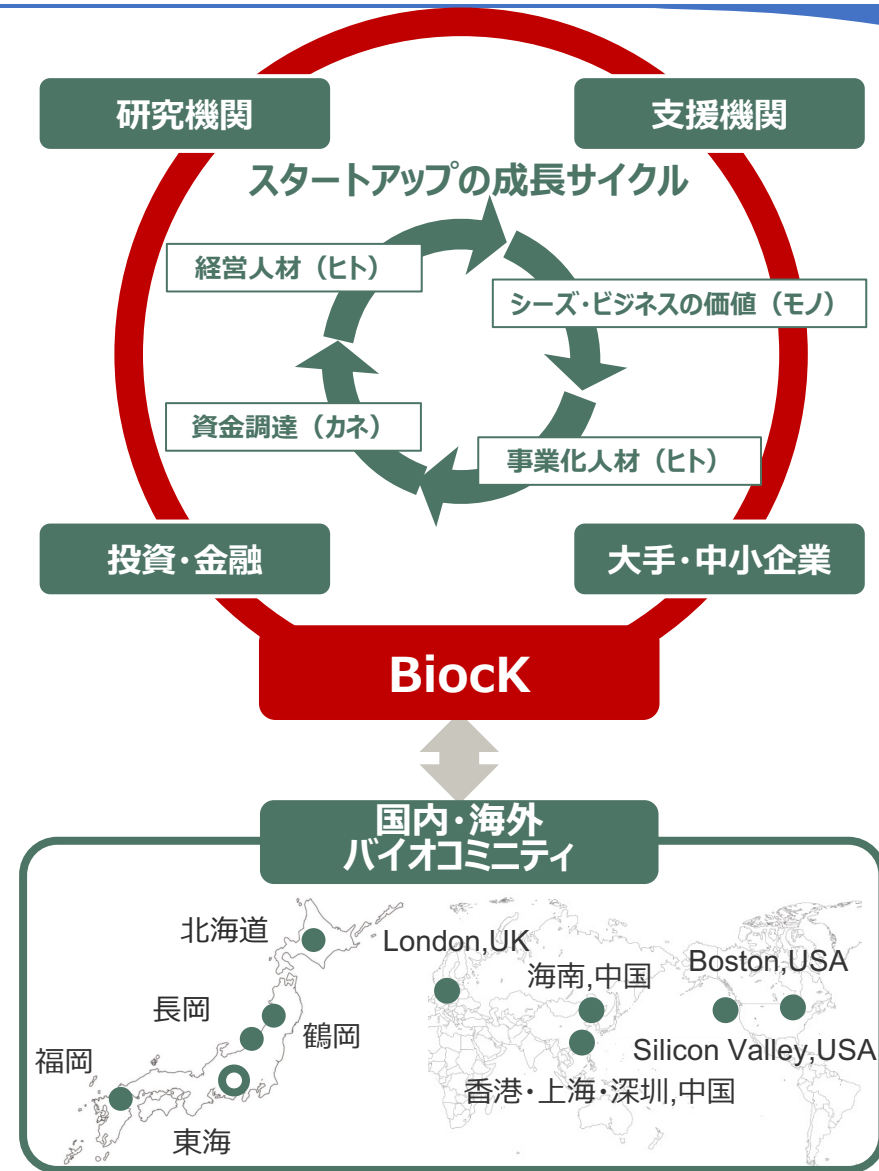
- ✓ 各ステークホルダーとの連携を図り、域内外の認知を高めながら、より強固なエコシステムの確立を目指す。

具体案 シーズ発表会（研究機関/企業）の開催、Globalカンファレンス（スタートアップ/投資家）の開催

3 国内・海外バイオコミュニティとの連携強化

- ✓ 国内における他地域バイオコミュニティや、BostonやSilicon Valley等におけるスタートアップエコシステムとの連携を図り、海外からのバイオイノベーションハブとしての認知を高めながら、世界的なエコシステムの構築を目指す。

具体案 Globalカンファレンス（スタートアップ/投資家）への参加・開催、バイオベンチャーの国内外大手企業との連携支援



スタートアップ分科会が目指す2つの人材育成強化

2 人材育成強化

1 経営人材の育成

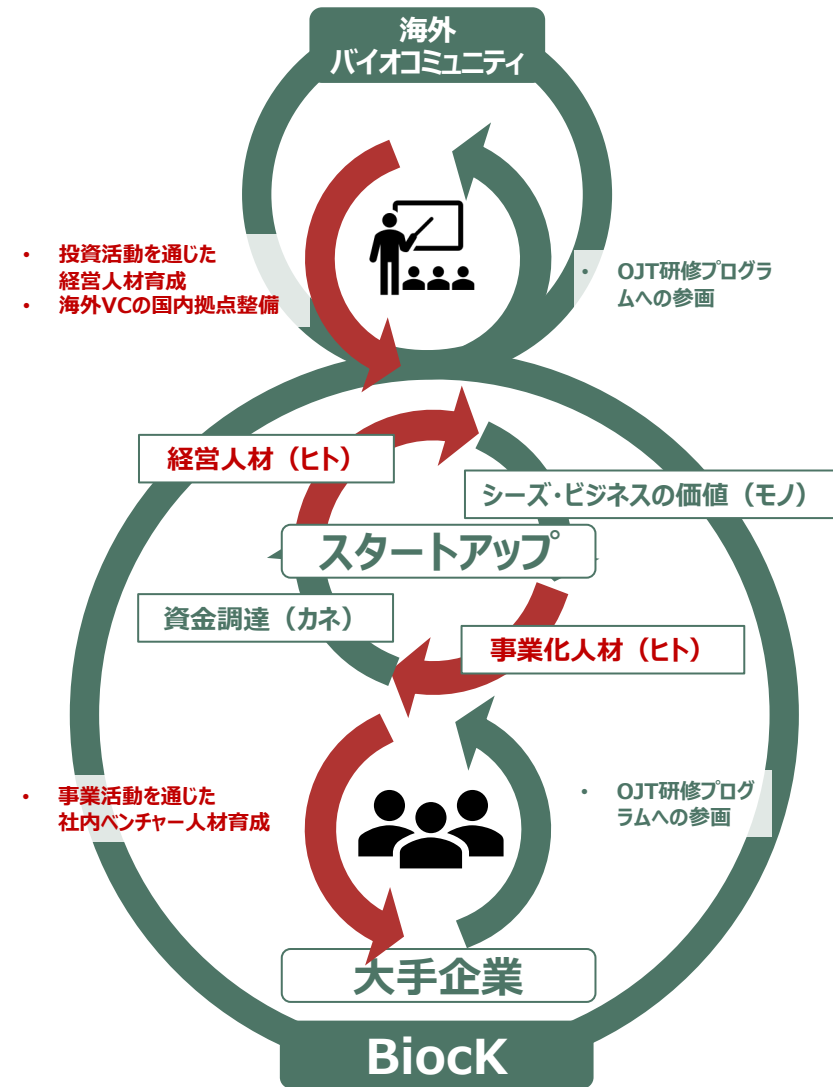
- ✓ ベンチャーとして取り扱うべき研究テーマの発掘・目利きの上、経営戦略の構築が可能な人材を育成し、顕在化する。
- ✓ 現状では、経営人材そのものが不足しており、また、経営人材候補に対し備えておくべき能力を十分に育成することができていない。
- ✓ 世界最先端のエコシステムが確立している海外バイオコミュニティとの連携を通して、それらの能力の向上を図る。

具体案 海外バイオコミュニティに対するシーズ情報の発信、経営人材育成に長けた海外VCによる連携、経営人材育成のためのOJT支援

2 事業化人材の育成

- ✓ 研究開発戦略・知財戦略・薬事戦略等の構築と、主体的な活動が可能な人材を育成し、顕在化する。
- ✓ 現状では、大手企業の戦略に合致する熟度まで研究開発を進展できておらず、開発目標に繋がるコミュニケーションが取れていない、戦略構築を担うことができる人材がいない。
- ✓ 人材が大手企業に局在化し、経験やノウハウの共有が不足している状況を打破する仕組みを検討する。

具体案 事業化人材育成のためのOJT支援（バイオベンチャーへの出向プログラムを通し、参加者や所属元組織に対して経験・ノウハウの獲得を、バイオベンチャーにとっては事業化視点の獲得を目指す）



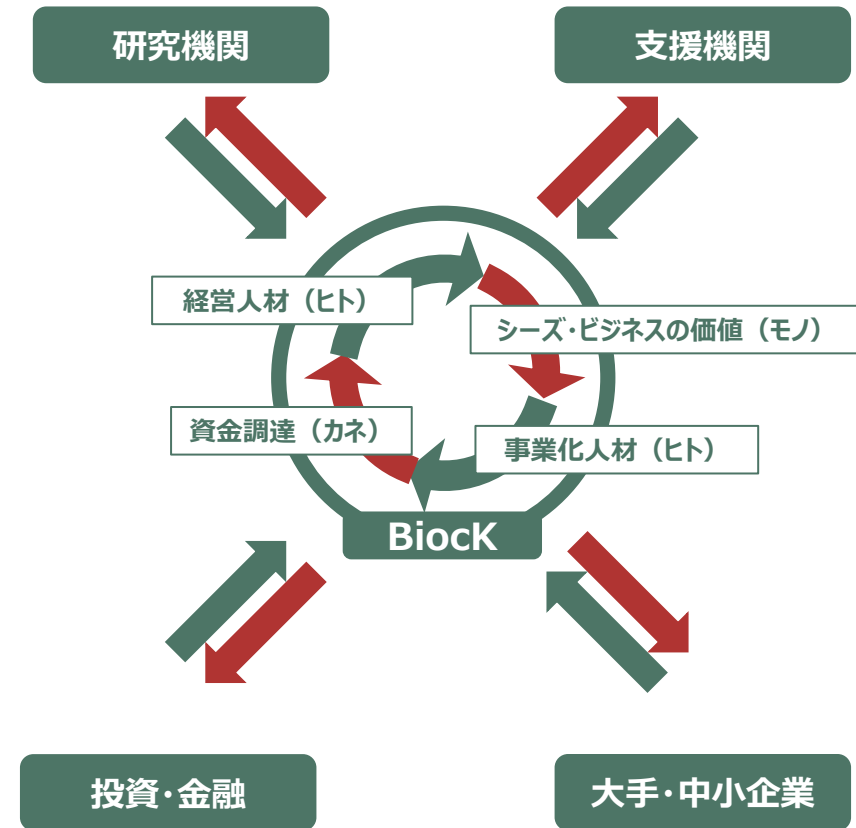
3 情報発信強化

① 国内外の認知度・アクセス向上

- ✓ 関西の魅力を国内外に発信することでBiocKの国内外での認知度を高め、国内外企業の誘致、関西のシーズの導出、国内外からの資金調達の実現を目指す。
- ✓ 現状では、スタートアップ自身が投資家等に対して分かりやすい、かつ必要十分な内容の情報提供ができていない。その背景には、解決したい社会課題の設定、市場規模やビジネスモデル上の検討、出口戦略の設定が不十分である場合が多いことが挙げられる。
- ✓ シーズ発表会・Globalカンファレンスの開催・登壇者へのメンタリングを通じて能動的に発信能力を高めつつ、国内外からのアプローチに対応できる仕組み（受動的な活動）を構築する。
- ✓ 情報発信にあたっては、BiocKとして窓口機能を有するとともに、各連携機関の継続的な情報アップデート（各連携機関の窓口担当の把握、機関内での取り組み進捗の把握）を行う。

具体案 各連携機関の窓口の整理、BiocKの窓口機能の整備（組織・担当者の整備、各連携機関の継続的な情報アップデート）

具体案 海外スタートアップデータベースへの登録強化を図る。



5カ年活動計画案



		2022	2023	2024	2025	2026	目指すゴール
組織体制構築		基本体制構築、 役割整理					
			コミュニティメンバーの拡充・事業予算獲得活動				
試行的なベンチャー企業 への支援・ニーズ確認		スペシャル トライアル					
連携	・ 支援組織・機能との連携強化		支援機能との連携を通じた課題・取組みの具体化				
	・ ステークホルダーとの連携強化		シーズ発表会の開催				
	・ 国内・海外バイオコミュニティとの連携強化		バイオベンチャーの国内外大手企業との連携支援				
	・ 国内・海外バイオコミュニティとの連携強化	国内・海外視察と連携協議	協働プログラムの実装				<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> 効率的なスタートアップエコシステム形成 ・ シーズの事業化数増 </div>
人材育成	・ 経営人材の育成		海外バイオコミュニティとのOJT研修プログラム確立				事業化のアクセラレート <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成数増 ・ 人材の顕在化
	・ 事業化人材の育成		国内事業会社とバイオベンチャーの人材流動化プログラム確立				
情報発信	・ 国内外の認知度・アクセス向上		国内カンファレンスの主催・後援				<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知度向上 ・ 企業誘致数増 ・ 投資額・件数増 ・ シーズ導出数増
		Globalカンファレンスへの参加	Globalカンファレンスの開催				

グローバルバイオコミュニティとしての成熟

本年度活動① スタートアップ分科会による支援機能の構築

1 連携強化、**2** 人材育成強化を実現するための支援機能を構築するために、試行的なベンチャー企業への支援（スペシャルトライアル）を通して、ニーズの把握、PoC取得を進める。



本年度活動② 情報発信強化

直近の情報発信として以下イベントでの登壇・後援を実施・予定。

- | | |
|-----------|---|
| 6月30日 | 関西広域連合主催の「KANSAI Startup Night」の後援（終了） |
| 8月30日 | NTT西日本/Biockパーソナルデータ分科会主催イベント「サイエンスをベースにしたWell-being産業の創出 - PHRの活用を社会として前に進めていくためには？ -」後援 |
| 11月24/25日 | 関西アカデミア×KSII×SMBC「第2回Challenge万博『いのち輝く未来社会』へ」イノベーションセミナー |
| 12月9日 | Biockパーソナルデータ分科会/スタートアップ分科会、MIRACLE主催イベント「【サイエンスをベースにしたWell-being産業の創出 - PHRの活用から全ての産業にまたがる新価値創造へ -】ワークショップ |
| 2月17日 | 川崎市殿町RINK FESTIVALにてBiockスタートアップ分科会として情報発信
(近畿経済産業局) |



3 情報発信強化